

「教育に関するアンケート調査」調査結果の概要

教育総務課

第2次長野県教育振興基本計画策定の基礎資料とするために、県内の公立小・中学校教員の勤務実態及び、教員・保護者の教育に関する意識等についてアンケート方式により調査しました。

1 調査概要

(1) 教員勤務実態調査

- 〔調査内容〕 公立小・中学校教員の1週間の勤務実態（残業時間、持ち帰り時間、休日勤務時間、左記における業務内容等）
- 〔調査方法〕 ●調査対象者：公立小・中学校教員から2,204人を抽出（回答者数1,933人）
●調査期間：平成23年11月28日～12月4日（1週間）の勤務実態（学校を通じて配付・回収）

(2) 教員及び保護者の意識調査

- 〔調査内容〕 《教員（16項目）》
①仕事の満足感、負担感 ②忙しさを感じる業務 ③忙しさ、負担感解消手段
④学校の特徴 ⑤身に付けたい力 ⑥能力向上施策 ⑦学力向上に必要なこと
⑧通知票の付け方 ⑨テスト問題の作成方法 ⑩全国学力・学習状況調査
⑪授業時間の使い方 ⑫授業内容 ⑬授業方法 ⑭学習意欲を高める工夫
⑮家庭学習の課題 ⑯学校での体力向上
- 《保護者（6項目）》
①学校と保護者、地域との関係性 ②将来の可能性 ③学校に対する満足感
④高校選択 ⑤全国学力・学習状況調査 ⑥授業イメージ
- 《保護者、教員共通（6項目）》
①保護者・地域との連携 ②授業以外にやるべきこと ③教員がやらなくて良いこと
④学校で身に付ける能力 ⑤望ましい子ども像 ⑥体力向上
- 〔調査方法〕 ●調査対象者
教員：公立小・中・高等学校教員から3,007人を抽出（回答者数2,666人）
保護者：公立小・中・高等学校児童生徒の保護者から10,976人を抽出（回答者数10,044人）
●調査期間：平成23年11月下旬～平成24年1月上旬（学校を通じて配付・回収）

2 調査結果（抜粋）

(1) 教員勤務実態調査

① 勤務日1日あたりの平均残業時間・持ち帰り時間

本県教員の勤務日1日当たりの平均残業（時間外勤務。※1）時間は持ち帰り（※2）時間も含めて2時間25分で、平成18年度の全国調査とほぼ同様の状況となっている。

※1 残業……勤務日の出退勤時刻の内で正規の勤務時間以外で行われた業務及び休日の出退勤時刻の内に行った業務

※2 持ち帰り……勤務日及び休日での出勤時刻前、退勤時刻後に学校以外等で行われた業務のこと

◆勤務日・1日あたりの平均残業時間量・持ち帰り時間量

	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
小学校 (N=1,154)	1時間50分	29分	2時間19分
中学校 (N= 779)	2時間14分	20分	2時間34分
全 体 (N=1,933)	2時間	25分	2時間25分

《参考：文部科学省 平成18年度教員勤務実態調査 第6期(11/20～12/17) 勤務日》

	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
小学校	1時間36分	38分	2時間15分
中学校	2時間08分	24分	2時間32分
全 体	1時間53分	30分	2時間24分

② 勤務日の残業時間・持ち帰り時間における業務内容

業務内容では、授業準備や成績処理に携わっている時間が長い。また、全国と比較すると、成績処理の時間が短く、学校経営に関わる業務（※）、校外での会議、学年・学級通信の作成（小学校）の時間が長くなっている。

※ 学校経営に関わる業務……学校の運営に関わる業務のうち校務分掌に関わる業務、安全点検、校内巡視、校舎環境整備など

◆勤務日の平均残業時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校	中学校	全 体
1 授業準備	22分	成績処理 33分	成績処理 24分
2 成績処理	18分	授業準備 25分	授業準備 23分
3 学校経営	15分	学校経営 15分	学校経営 15分
4 事務・報告書作成	11分	事務・報告書作成 9分	事務・報告書作成 10分
5 会議・打ち合わせ	8分	会議・打ち合わせ 9分	会議・打ち合わせ 9分

◆勤務日の平均持ち帰り時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校	中学校	全 体
1 授業準備	10分	成績処理 5分	授業準備 8分
2 成績処理	8分	授業準備 5分	成績処理 7分
3 その他校務	3分	学校経営 2分	校外での会議 2分
4 校外での会議	3分	校外での会議 2分	事務・報告書作成 2分
5 学年・学級通信の作成	3分	事務・報告書作成 2分	その他校務 2分

《参考：文部科学省 平成18年度教員勤務実態調査 第6期(11/20～12/17)》

○勤務日の平均残業時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校	中学校	全 体
1 授業準備	22分	成績処理 31分	成績処理 26分
2 成績処理	21分	授業準備 19分	授業準備 21分
3 事務・報告書作成	9分	会議・打ち合わせ 11分	事務・報告書作成 10分
4 学校経営	7分	事務・報告書作成 11分	会議・打ち合わせ 9分
5 会議・打ち合わせ	7分	部活動・クラブ活動 9分	学校経営 8分

○勤務日の平均持ち帰り時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校	中学校	全 体
1 成績処理	16分	成績処理 10分	成績処理 13分
2 授業準備	11分	授業準備 5分	授業準備 7分
3 学年・学級経営	2分	事務・報告書作成 1分	事務・報告書作成 2分
4 事務・報告書作成	2分	その他校務 1分	学年・学級経営 2分
5 その他校務	1分	学年・学級経営 1分	その他校務 1分

③ 休日1日あたりの平均残業時間・持ち帰り時間

休日1日当たりの平均残業時間は持ち帰りも含めて2時間38分で、特に中学校で長い。

※ 休日……土日に限らず学校に出勤しなくてもよい日（振替休日なども含む、出勤の有無を問わない）とし、全国調査の定義と合わせている。

◆休日・1日あたりの平均残業時間量・持ち帰り時間量

	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
小学校 (N=1,154)	23分	1時間49分	2時間12分
中学校 (N= 779)	1時間37分	1時間39分	3時間16分
全体 (N=1,933)	53分	1時間45分	2時間38分

《参考：文部科学省 平成18年度教員勤務実態調査 第6期(11/20~12/17) 休日》

	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
小学校	20分	1時間53分	2時間13分
中学校	1時間13分	1時間51分	3時間 5分
全体	49分	1時間52分	2時間41分

④ 休日の残業時間・持ち帰り時間における業務内容

業務内容では、成績処理に携わる時間と共に、特に中学校では部活動・クラブ活動に携わっている時間が長い。

◆休日の平均残業時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校	中学校	全体
1 成績処理	9分	部活動・クラブ活動 43分	部活動・クラブ活動 18分
2 授業準備	2分	成績処理 11分	成績処理 10分
3 学校経営	2分	社会体育 9分	社会体育 4分
4 部活動・クラブ活動	1分	授業準備 4分	授業準備 3分
5 事務・報告書作成	1分	その他校務 4分	その他校務 2分

◆休日の平均持ち帰り時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校	中学校	全体
1 成績処理	47分	部活動・クラブ活動 23分	成績処理 33分
2 授業準備	15分	社会体育 18分	授業準備 12分
3 事務・報告書作成	4分	成績処理 14分	部活動・クラブ活動 10分
4 その他校務	4分	授業準備 7分	社会体育 9分
5 学校経営	3分	その他校務 5分	事務・報告書作成 4分

《参考：文部科学省 平成18年度教員勤務実態調査 第6期(11/20~12/17)》

○休日の平均残業時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校	中学校	全体
1 成績処理	5分	部活動・クラブ活動 46分	部活動・クラブ活動 25分
2 授業準備	3分	成績処理 10分	成績処理 7分
3 保護者・PTA 対応	2分	授業準備 3分	授業準備 3分
4 事務・報告書作成	2分	事務・報告書作成 2分	事務・報告書作成 2分
5 その他校務	1分	その他校務 2分	保護者・PTA 対応 2分

○休日の平均持ち帰り時間における業務内訳（上位5項目）

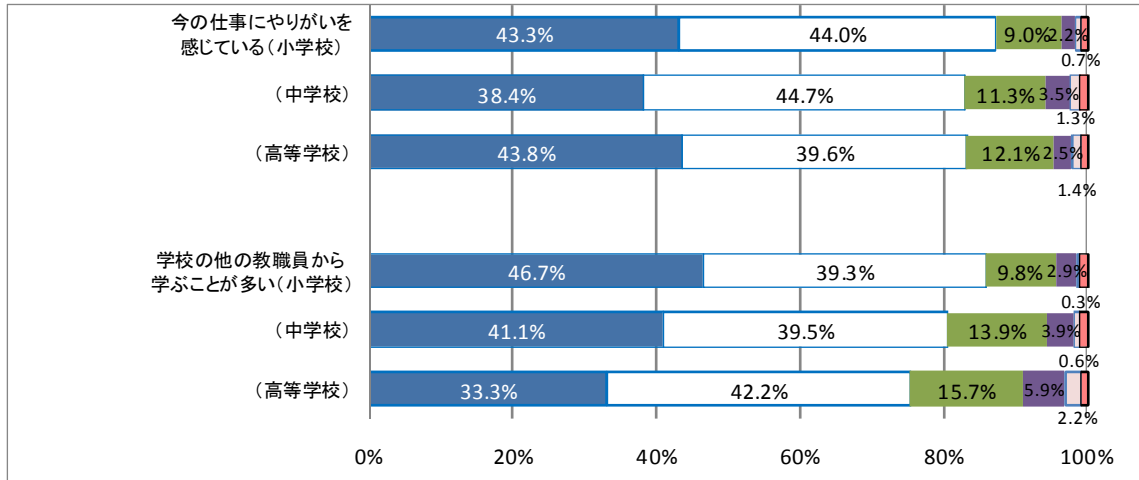
	小学校	中学校	全体
1 成績処理	56分	成績処理 38分	成績処理 46分
2 授業準備	24分	部活動・クラブ活動 35分	部活動・クラブ活動 19分
3 事務・報告書作成	8分	授業準備 12分	授業準備 18分
4 学年・学校経営	6分	事務・報告書作成 6分	事務・報告書作成 7分
5 その他校務	4分	その他校務 4分	学年・学校経営 4分

(2) 教員意識調査

① 仕事に対する満足感、負担感、多忙感

今の仕事にやりがいを感じている、学校の他の職員から学ぶことが多いとする回答が多い。

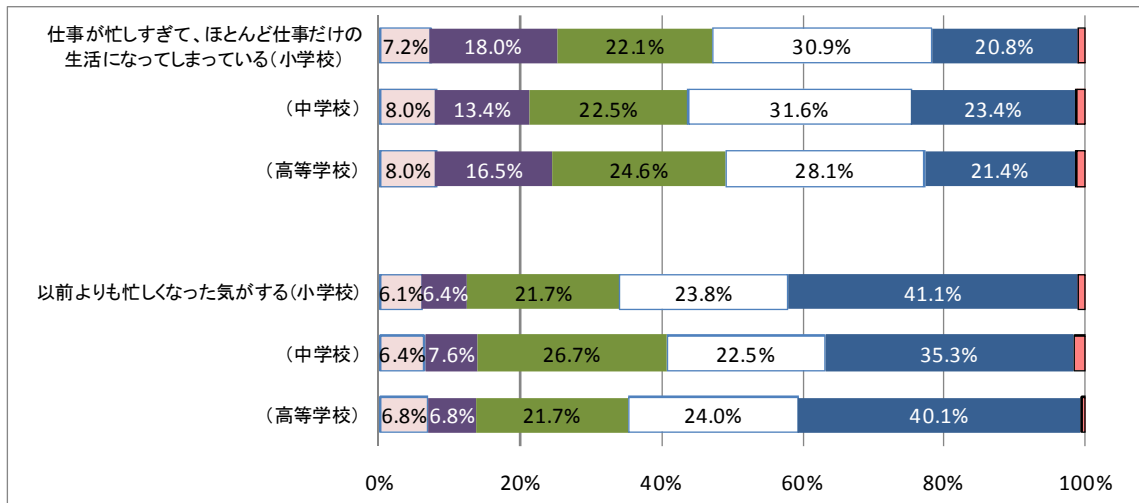
◆グラフ [満足感]



■ あてはまる □ どちらかといえばあてはまる ■ どちらともいえない ■ どちらかといえばあてはまらない ■ あてはまらない ■ 無回答

仕事量に対する負担や多忙化を感じている傾向がみられる。

◆グラフ [負担感・多忙感]



□ あてはまらない ■ どちらかといえばあてはまらない ■ どちらともいえない □ どちらかといえばあてはまる ■ あてはまる ■ 無回答

② 忙しさを感じる業務

直接児童生徒に接しないデスクワークに忙しさを感じる度合いが高い傾向がみられる。

◆忙しさを感じる業務（上位3項目 ※複数選択） (%)

	小学校 (N=1,154)		中学校 (N=779)		高校 (N=733)	
1	授業準備	37.8	成績処理	34.1	授業準備	37.9
2	学校経営	28.4	授業準備	33.5	部活動・クラブ活動	36.3
3	事務・報告書作成	27.1	部活動・クラブ活動	31.3	生徒指導（個別）	30.0

③ 教員が力をつけたいと思っていること

授業、指導方法や教科の専門性に加えて、生徒指導、発達障害、児童生徒の心理や学級経営等に関して力をつけたいと思っている教員が多い。そのために、総合教育センターや研究会等の研修に参加することが望ましいとする意見も多いが、実際の行動につながっていない傾向がある。

◆教員が力をつけたい事項（上位3項目 ※複数選択） (%)

	小学校 (N=1,154)		中学校 (N=779)		高等学校 (N=733)	
1	授業の進め方や指導方法に関すること	60.5	授業の進め方や指導方法に関すること	49.6	教科に対する専門性や知識	58.5
2	教科に対する専門性や知識	41.4	教科に対する専門性や知識	46.9	授業の進め方や指導方法に関すること	36.6
3	発達障害児の指導に関すること	31.4	生活指導や生徒指導に関すること	26.3	進路指導に関すること	25.1

④ 心がけている授業内容

心がけている授業内容のうち、「多くするように特に心がけている」と回答した割合が最も高いのは、小・中・高等学校に共通して、「基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習」で、次いで「基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習」となっている。

◆「多くするように特に心がけている」授業内容（上位3項目） (%)

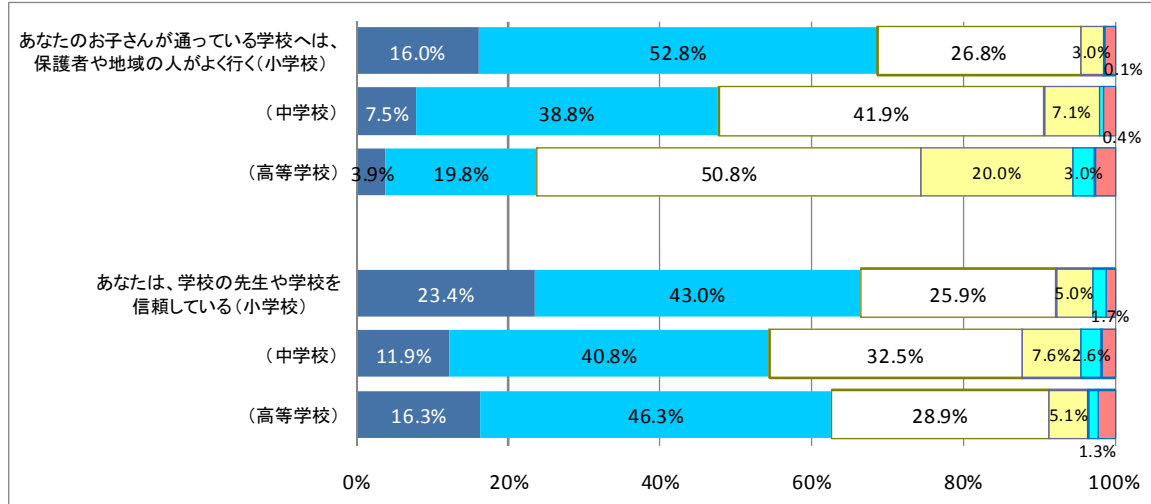
	小学校 (N=1,154)		中学校 (N=779)		高等学校 (N=733)	
1	基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習	68.2	基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習	65.6	基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習	66.8
2	基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習	39.8	基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習	41.8	基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習	42.2
3	探究的な学習	23.3	探究的な学習	21.4	上級学年等に進んでから困らないように配慮した学習	19.6

(3) 保護者意識調査

① 学校と地域・保護者との関係性

学校段階が上がるにつれて、保護者・地域住民が学校に行く機会が減少し、また、保護者の学校に対する信頼感は中学校で低くなっている。

◆グラフ [地域との関係性]

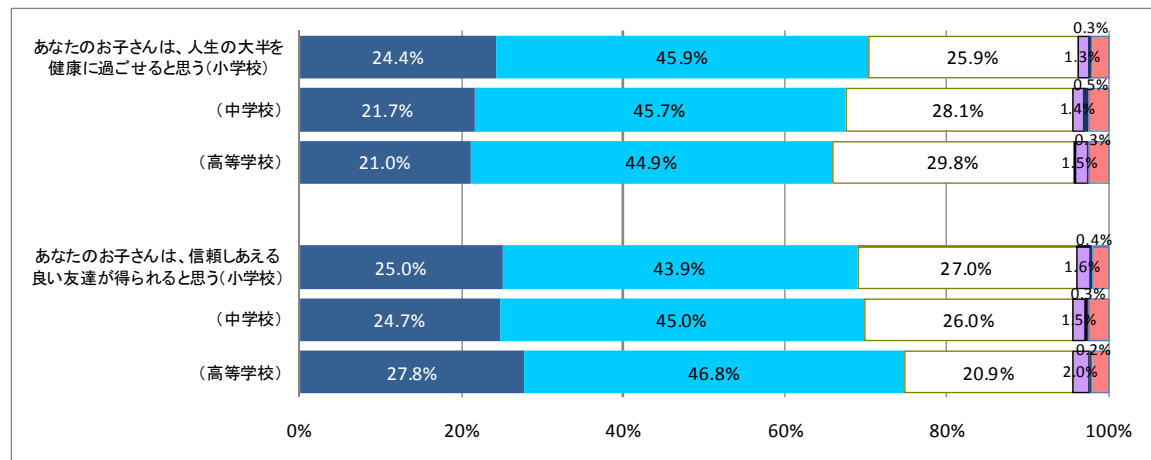


■ 非常にあてはまる ■ かなりあてはまる ■ どちらともいえない ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない ■ 無回答

② 子どもの将来の可能性

子どもが実現できる可能性を聞いた質問のうち、「人生の大半を健康に過ごせると思う」、「信頼しあえる良い友達が得られると思う」については、約7割の保護者が肯定的に捉えている。

◆グラフ [子どもの将来の可能性]

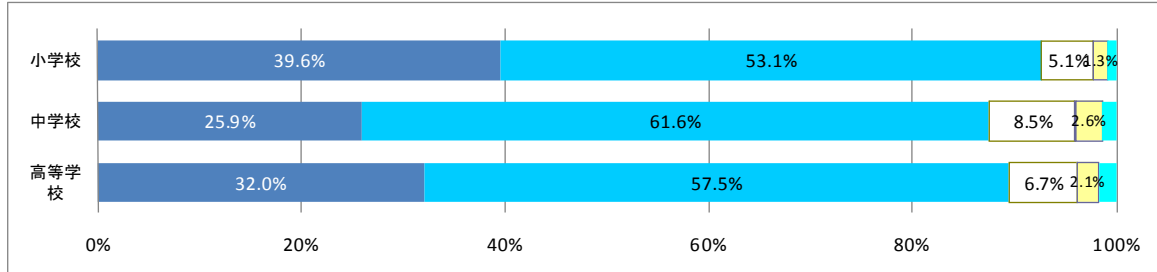


■ 非常に大きい ■ かなり大きい ■ 五分五分 ■ かなり小さい ■ 非常に小さい ■ 無回答

③ 子どもは喜んで学校へ行っているか

約9割の保護者が子どもは学校へ喜んで行っていると考えているが、中学校において若干割合が低くなっている。

◆グラフ [学校の満足度]

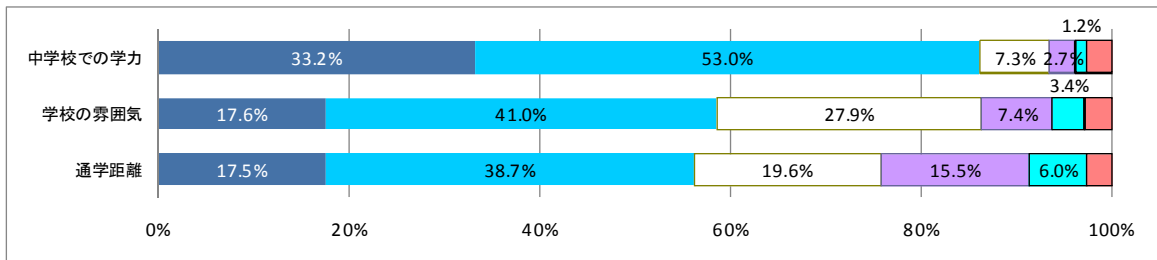


■ とても喜んで行っている ■ おおむね喜んで行っている ■ あまり喜んで行っていない ■ 喜んで行っていない ■ 無回答

④ 高等学校の選択理由

高等学校の選択に際して、「中学校での学力」を考慮したと回答する保護者の割合が86.2%と最も高く、次いで「学校の雰囲気」、「通学距離」の順となっている。

◆グラフ [高校の選択理由 (高校生の保護者)]

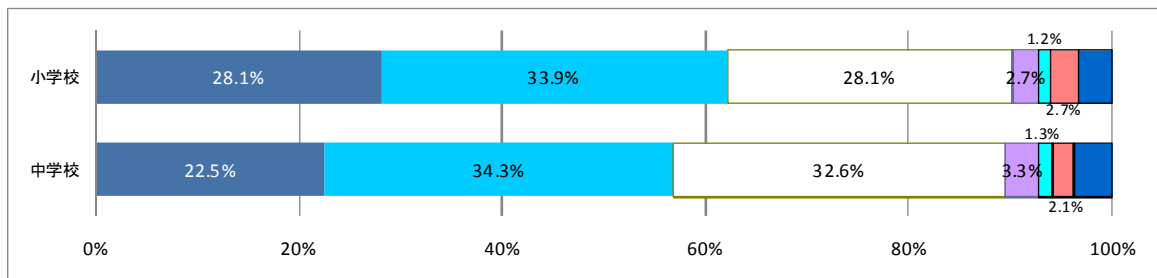


■ 特に考慮した ■ 考慮した ■ どちらとも ■ あまり考慮しなかった ■ 考慮しなかった ■ 無回答
いえない

⑤ 全国学力・学習状況調査の賛否

全国学力・学習状況調査について、約6割の保護者が「賛成」又は「どちらかという賛成」と回答し、「反対」とする保護者を大きく上回っている。

◆グラフ [全国学力・学習状況調査の実施]



■ 賛成である ■ どちらかという賛成である ■ どちらともいえない ■ どちらかという反対である
■ 反対である ■ よくわからない ■ 無回答

(4) 保護者・教員共通の意識調査

① 学校と保護者・地域との連携や学校支援

保護者、教員ともに、子どもに関する情報提供や相談対応を必要とする意識が高い。ただし、「とても必要」とする割合が高い項目は、教員が、「子どもの学校でのよいところを保護者に伝える」や、「学校の教育方針を保護者に伝える」としているのに対して、保護者は、「子どもの学校での様子をありのまま保護者に伝える」、「保護者が気軽に質問したり相談できるようにする」となっている。

◆「子どもの学校での様子をありのまま保護者に伝える」（とても必要と回答した割合）

	教員	保護者
小学校（教員N=1,154、保護者3,539）	22.4%	62.4%
中学校（教員N=779、保護者3,228）	28.9%	55.0%
高等学校（教員N=733、保護者3,277）	32.6%	41.9%

◆「子どもの学校でのよいところ保護者に伝える」（とても必要と回答した割合）

	教員	保護者
小学校（教員N=1,154、保護者3,539）	77.6%	40.7%
中学校（教員N=779、保護者3,228）	70.7%	34.7%
高等学校（教員N=733、保護者3,277）	55.9%	26.4%

◆「学校の教育方針を保護者に伝える」（とても必要と回答した割合）

	教員	保護者
小学校（教員N=1,154、保護者3,539）	63.1%	30.8%
中学校（教員N=779、保護者3,228）	59.4%	27.6%
高等学校（教員N=733、保護者3,277）	60.0%	26.1%

② 授業以外で教員がやるべきこと

小中学校においては、「集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること」、「しつけをすること（集団の中でルールを守ること）」について、教員も保護者もやるべきとする割合が高くなっている。

高等学校においては、「進路指導」、「集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること」等について、教員も保護者もやるべきとする割合が高くなっている。

◆授業以外で教員がやるべきこと（上位3項目 ※複数選択） (%)

	小学校教員（N=1,154）	中学校教員（N=779）	高等学校教員（N=733）
1	集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること 76.9	集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること 66.1	進路指導 48.6
2	しつけをすること（集団の中でルールを守ること） 56.8	しつけをすること（集団の中でルールを守ること） 49.9	集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること 42.6
3	友だちと仲良くすること、友だちの作り方 22.7	進路指導 33.5	しつけをすること（集団の中でルールを守ること） 38.3

	小学校保護者（N=3,539）	中学校保護者（N=3,228）	高等学校保護者（N=3,277）
1	集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること 65.1	集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること 51.4	進路指導 63.6
2	しつけをすること（集団の中でルールを守ること） 54.1	進路指導 49.8	集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること 35.3
3	学校の教育方針や子どもの様子、学校行事の予定などの情報提供 22.9	しつけをすること（集団の中でルールを守ること） 38.2	しつけをすること（集団の中でルールを守ること） 27.0

③ 学校教育等で身につける必要性が高い能力や態度について

教員、保護者に共通して、学校教育の中で身につける必要性の高い能力・態度として、「教科の基礎的な学力」、「自ら学ぼうとする意欲」、「人間関係を築く力」があげられている。一方、「受験に役立つ学力」は、保護者からの必要性の割合が高く、教員との差が大きくなっている。

◆学校で身につける必要性の高い能力（上位3項目 ※複数選択） (%)

	小学校教員 (N=1,154)		中学校教員 (N=779)		高等学校教員 (N=733)	
1	教科の基礎的な学力	86.4	教科の基礎的な学力	82.2	教科の基礎的な学力	81.6
2	自ら学ぼうとする意欲	76.0	自ら学ぼうとする意欲	71.2	自ら学ぼうとする意欲	71.6
3	人間関係を築く力	66.2	人間関係を築く力	65.3	生き方や進路について考える力	58.5

	小学校保護者 (N=3,539)		中学校保護者 (N=3,228)		高等学校保護者 (N=3,277)	
1	教科の基礎的な学力	75.3	教科の基礎的な学力	75.2	教科の基礎的な学力	70.6
2	人間関係を築く力	67.9	人間関係を築く力	64.0	人間関係を築く力	54.6
3	善悪を判断する力	54.8	受験に役立つ学力	54.9	受験に役立つ学力	51.4